

イベント指向データ管理手法を用いた系図表示 —神話における系譜・系図の表示—[¶]

生田 敦司*, 横澤 大典*, 杉山 正治[§], 平塚 聡[§], 柴田 みゆき*, 松浦 亨**
大谷大学*, 立命館大学[§], 北海道大学病院**

1. はじめに

神話にみられる系譜情報を系図化の際、考慮すべき問題の1つに「モノザネ」(物種, 物根, 物実 etc) と呼ばれるものが挙げられる。モノザネは、婚姻や男女の交合に依らずに、個性外の物と個性との接触や、個性の一部の変性により、下位世代の神の発生を語るものである。従来、このような神話の系図化では、文脈に即して自由な様式で表現され、定まった図像化規則は存在していない。また、通常の婚姻形態などを表示させる従来の系図表示ソフトウェアでは、モノザネによる神の発生を系図化することができない [1]。

我々はこれまでに、モノザネを系図表示させるべく、図像化規則を設定し、Magnifying And Simplifying System for RetrIeve and Display Genealogy (通称 MaSS-RiDGe) に実装した [2]。しかし、このシステムでは、系譜関係が複雑な時に、線分交叉を表示させることを前提としていなかった。

その後、我々は不可視結節点による新しいデータ管理手法 Widespread Hands to InTErconnect BASic Elements (略称:WHItEBasE) を用いて、線分交叉を伴う系図表示を実現した [3]。

本研究では、神の発生に多くのモノザネが介在しても、従来の WHItEBasE モデルを変更することなく系図表示を可能とする新たな図像化規則を考察する。

2. 神話におけるモノザネ

本研究の趣旨を示すため、『古事記』『日本書紀』の神話から、モノザネが介在して神が発生する例を、2節に分けて現代語訳で示す。

2.1. 火神殺害の神話

イザナギ命は持っていた十拳劍(とつかのつるぎ)を抜き、カグツチ神の首を斬った。

その刀の前(さき)についた血が、湯津石村(ゆついはむら=磐の群れ)に走り就いて、石拆神, 根拆神, 石筒之男神が成った。

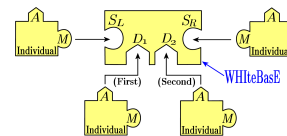


図 1: WHItEBasE モデル

次に刀の本(もと)についた血が、湯津石村に走り就いて、甕速日神, 樋速日神, 建御雷之男神が成った。

次に刀の手上(柄)に集まった血が手の股から漏れ出て、闇淤加美神, 闇御津羽神が成った。

殺されたカグツチ神の頭に成った神は、正鹿山津見神。

次に胸に成った神は、淤藤山津見神。

次に腹に成った神は、奥山津見神。

次に陰部に成った神は、闇山津見神。

次に左の手に成った神は、志藝山津見神。

次に右の手に成った神は、羽山津見神。

次に左の足に成った神は、原山津見神。

次に右の足に成った神は、戸山津見神。

2.2. 天照大神とスサノヲ神のモノザネ交換

天照大御神が、先ずスサノヲ命の十拳劍を三段に打ち折り、天の眞名井に振り滌ぎ、それを嘯んで、吹き出した狭霧に成った神は、多紀理毘賣命, 次に市寸島比賣命, 次に多岐都比賣命。

スサノヲ命は、天照大御神の左の御美豆良(みみづら)の八尺の勾瓊の五百津美須麻流の珠を、天の眞名井に振り滌ぎ、それを嘯んで、吹き出した狭霧に成った神は正勝吾勝勝速日天之忍穗耳命。

また、右の御美豆良の珠を嘯んで、吹き出した狭霧に成った神は、天之菩卑能命。

また、御鬘(みかづら)の珠を嘯んで、吹き出した狭霧に成った神は、天津日子根命。

また、左の御手の珠を嘯んで、吹き出した狭霧に成った神は、活津日子根命。

また、右の御手の珠を嘯んで、吹き出した狭霧に成った神は、熊野久須毘賣命。

3. WHItEBasE とモノザネ

WHItEBasE は、親となる2者が1対1で結合し、それに1~n個の個性が子として接続される(図1)。一方、モノザネは1つの個性に対して複数関与する場合がある。

仮に、WHItEBasE を改変して複数の「親」を結合させるとデータの把握が煩雑となる。また、神格とモノ

[¶]Displaying Genealogy with Mythological Relations by Using the WHItEBasE

*Atsushi Ikuta, Daisuke Yokozawa and Miyuki Shibata: Otani University

[§]Seiji Sugiyama and Satoshi Hiratsuka: Ritsumeikan University

**Tohru Matsuura: Hokkaido University Hospital

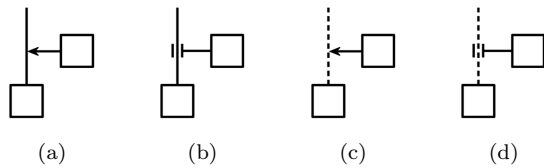


図 2: モノザネ接続の種類

ザネとが「親」であるかのような表示は、系図の理解に不都合を生じさせる。

以上を踏まえて、新しい図像化規則を考察する。

4. 神発生の類型

まず、2. で示した神話に基づいて、モノザネによる神発生の類型を整理する。

4.1. モノザネが介在しない場合

神と神が子を成す神話は、一般的に男女の交合を想定して神話化されている。したがって、この形は、従来の系図表現による婚姻形態で表示することができる。

4.2. モノザネが介在する場合

神とモノザネが関わる場合、神はモノザネに対して何らかの作用を及ぼす。

神の所有物(モノザネ)が1~n個神と関わる場合、モノザネは神に対して何らかの作用を及ぼす。

また、神の所有物ではない外物(モノザネ)が1~n個神と関わる場合、モノザネは神に対して何らかの作用を及ぼす。

4.3. 神の一部から神が発生する場合

神の腕や足、血など、その一部から神が発生する場合がある。このとき、(1) 神発生の所在を示すのみで何も作用が及ばないもの、(2) 一部が神になる際に何らかの作用が及ぶもの、以上に分類することができる。

5. 図像化規則

上述の分類から、モノザネが介在する神発生を系図表示する場合に必要な記号は、「作用が及ぶ」ことを示すものと、作用が及ばないで「通過や所在」を示すものとの2つである。前者を矢印形、後者を管形で示し、区別する。これらは水平線分上に示され、下位世代につながる垂直線分上に接続させる。

図2(a)は実線への、(c)は破線への矢印形の接続を、それぞれ示す。図2(b)は実線への、(d)は破線への管形の接続を、それぞれ示す。

また、作用が及ぶモノザネを神の所有物として示す場合、これまでの WHIteBasE システムの機能を利用して、養子縁組を示す線分(破線)を活用する。

以上により、これまでの WHIteBasE システムで、結節点の記号だけを変更すれば、新たな線分交叉等のアルゴリズムを使うことなく、一意的な系図表示が可能である。図3、図4は矢印形・管形の記号を用いたモノ

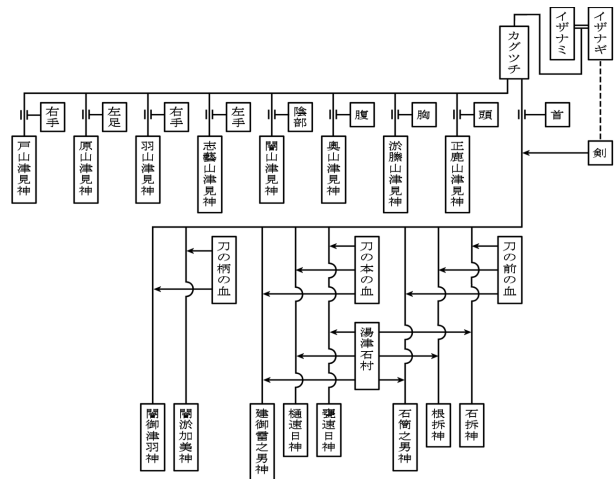


図 3: 火神殺害神話の系図化

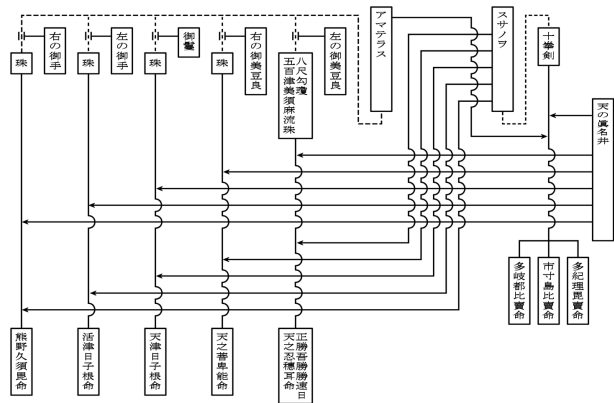


図 4: モノザネ交換神話の系図化

ザネが介在する神話の系図表示例である。矢印形・管形記号の使い分けは、ユーザーの解釈に一任される。

6. おわりに

以上、モノザネによる神発生の神話を系図表示させる図像化規則を考察した。今後は更にシステムの検証を行い、機能拡張や改訂を議論する予定である。

参考文献

- [1] 杉山正治, 柴田みゆき, 生田敦司, 松浦亨, 宮下晴輝, “線分交叉を伴う系図表示の基礎的研究—神話系図表記における線分交叉の前提と定式化に関する考察—”, 『情報処理学会第72回全国大会講演論文集』, p.4-555-556, 2010.
- [2] 柴田みゆき, 杉山正治, 生田敦司, 齋藤晋, 宮下晴輝 “『古事記』学術支援データベースの構築—神話系譜史料の表示形式に関する検討—” 『情報処理学会報告(人文科学とコンピュータ)』, 2007-CH-76(9), pp.57-64 (2007.09.27)
- [3] Seiji Sugiyama, Atsushi Ikuta, Daisuke Yokozawa, Miyuki Shibata and Tohru Matsuura, “Displaying Genealogy with Various Layouts by Using the WHIteBasE”, International Journal of Computer Information Systems and Industrial Management Applications (IJCSIM), ISSN 2150-7988, Volume 6, pp.102-115, 2014 (公開日 2013.7.1.)